

Title	前号掲載論文の修正 「円仁の記述するサンスクリット音節caの音価」(『大阪外国語大学・学報』, No. 52, pp. 63-80)
Author(s)	小林, 明美
Citation	大阪外国語大学学報. 56 p.60-p.62
Issue Date	1982-03-10
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80882
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

前号掲載論文の修正

「円仁の記述するサンスクリット音節 ca の音価」 (『大阪外国語大学・学報』, No. 52, pp. 63–80)

小 林 明 美

上記論文第Ⅲ章第三パラグラフ (p. 71) で, ca の項に見られる円仁のただし書き「比字輕微呼之 下字重音呼之」に言及して, 「サンスクリットの /c/ は, /a/ が後続すると閉鎖度が低く, /a/ 以外の母音が後続すると閉鎖度が高い」と解釈した。

ところで, 「下字亦然」というただし書きが, ka ga ca ja da ta ḍa pa および ba の項に見られる。いずれも子音が無気閉鎖音であり, 「本郷音」が当てられている場合である。ただし書きのない ṭa の項では「唐音」が当てられている。有気音または鼻音で始まる音節については, 「下字亦然」というただし書きは全く見られない。

有気音で始まる音節の項では, 「断氣呼之」(kha gha cha jha ṭha), 「比字断氣」(ḍha), 「断氣」(tha dha pha) または「但断氣」(bha) とただし書きをして子音が有気音であることを示すが, 調音についての具体的な記述をしていない。

無気閉鎖音で始まる音節について「下字亦然」というのは, 「次の項で取り上げる有気音も, 基本的なはこれと同じように発音される」ということを指示するものである。日本語に無気音と有気音の対立がない以上, 有気音については, 「下字亦然」として調音位置と閉鎖度が無気音と同じであることを確認した上で, 「但断氣」とただし書きを添えるよりほかなかったのである。

このように円仁は, 「下字」という語を「同じ子音と /a/ 以外の母音とから成る音節」という意味に使っておらず, 「次の項で取り上げる音節」の意味で用いている。したがって, ca の項で「下字重音呼之」というただし書きがあるのも, 「次の項で取り上げる cha」について言ったものであり, 「cā ci cī cu など /c/ に /a/ 以外の母音が後続する場合」について言ったものではない。

このように, 71頁7行目から14行目までは, 誤った解釈を示すものであるので, 全文を削除する。さらにこの部分に関連する脚注28と29も全文を削除する。

正 誤 表

頁	行	誤	正
63	26	clusion	(左へ3ミリ移す)
64	13	七十一才	七十才
	32	ないことで、	なかったことで、
65	22	附して	附けて
	37	[kàrye]	[kàrye]
66	20	l,	l,
67	11	p.87-93。	p.90。
	29	/ph/	/ph/)
68	22	p. 76,	p. 78,
	29	tś]	[tś]
	31	SA	SA
	37	もち上がる	上にとび出る
69	24	“齒声音”	“齒音”
	26	TS 2. 27	TS 2. 37
	35	接融	接触
	37	此婆字	今此婆字
71	7-14		(削除)
	19-31		(削除)
72	20	編集	編集者
	21	著書	著者
73	7	[i]	[i]
	8	[i]	[i]
74	25	p. 76,	p. 78,
	29	p. 76,	p. 78,
76	12	いる」, すなわ	いる」というのである。
	13		(削除)
	22	が、それ以後は	たが、それ以後になって
	23	いたのであるから、	いた。
77	2	調音方法の差	発音上の違い
	7	/tʃa/	tʃa
	7	/ʃi-a/	ʃi-a
	29	大唐汰字	大唐沙字

78	1	“サ”	/サ/
	4	而開 _レ 之	而終開 _レ 之
	7	ただちに] /a/ を発音して] /a/ の声を出して最後に
	30	附 _レ 勝呼 _レ a	附 _レ 勝呼 _レ a
79	3	『反字作法』	『反音作法』
	5	yiă	iă
	7	yiă	iă
	8	そのように	そ] のように
80	14	七世紀末	八世紀
	15		(削除)
	16-17	円仁の時代と同じように	(削除)
	17	七世紀末にも	八世紀に
	20	円仁の記述によれば, /シ/ と	(削除)
	21		(削除)